

令和5年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

綾川町における多文化共生のまちづくり

代表 北尾あかり（法学科 2年生）

（1）目的と概要

香川県内に暮らす外国人住民の数は年々増加しており、特に綾川町では技能実習生の割合が多く、町内の外国人住民の3分の2以上となっている。その中でもアジア圏からの実習生が多く、英語が堪能であるとは言えない。そのため外国人住民と私たち日本人住民とが助け合い、ともに安心して楽しく暮らせるまちづくりが求められている。しかし、技能実習生の在学期間の問題から日本の文化に触れたり、日本人と交流したりすることがあまりないまま自国に戻るようになってしまう実習生も多くいる。また一部の批判的なニュースに影響を受けて、日本人側が外国人との交流を避ける傾向も見られる。

この事業では、綾川町や綾川町教育委員会、綾川町商工会、アイパル香川（香川国際交流会館）の協力のもと、綾川町に住む地域住民と外国人住民がお互いに顔の見える関係を築くための交流の場を創出することを目的として、綾川町の小学生に向けたイベントを企画・実施した。

（2）実施期間

令和5年9月8日から令和6年2月28日まで

（3）成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

a) 羽床小学校・昭和小学校での交流イベント

実施日：令和5年9月8日（羽床小学校）、令和5年9月20日（昭和小学校）

場所：綾川町立羽床小学校、綾川町立昭和小学校

対象：小学4～6年生、インドネシアからの実習生

5月から準備を進め、6月の校長会にイベントの概要を提出し、町内の小学校5校の校長先生にイベントの実施についてを自分たちの口から説明した。7月には各小学校に訪問して、具体的な実施日やプログラム案等についてお話した。9月の交流イベントではインドネシアからの実習生にゲストとして来ていただくため、日本語講習センターに協力していただき、インドネシア人実習生4人をゲストとしてお招きした。他にも綾川町に在住しているインドネシア人の方を紹介していただき、綾川町在住のインドネシア人2名にもゲストとして来ていただいた。

具体的なイベント内容としては、自己紹介から始まり、綾川町内に住む外国人住民についてのミニクイズやインドネシアクイズ、パンチンボトルというインドネシア独自の遊び

を行った。クイズもパンチンボトルも小学生に喜んでもらえ、インドネシアについて知るきっかけになったのではないかと思います。



→パンチンボトルの様子

b) 滝宮小学校・綾上小学校・陶小学校での交流イベント

実施日：令和6年2月20日(滝宮小学校)、令和6年2月21日(綾上小学校)、令和6年2月28日(陶小学校)

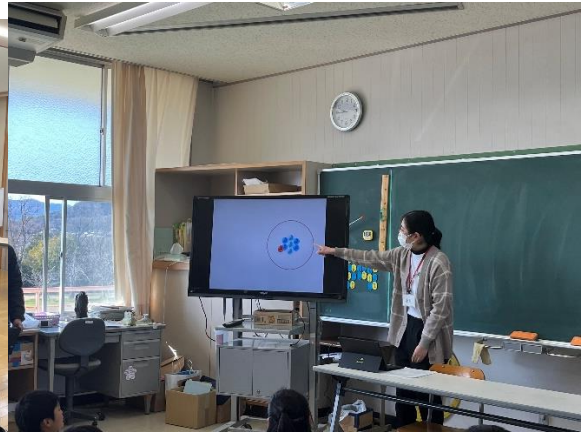
場所：綾川町立滝宮小学校、綾川町立綾上小学校、綾川町立陶小学校

対象：小学4～6年生

9月に行った交流イベント同様、今回も事前に小学校に訪問させていただき、具体的な実施日やイベント内容について、校長先生や担当の先生にお話しをした。9月に行ったイベントはインドネシアをテーマにしたが、今回はベトナムをテーマにジョイ・ビーというゲームを行った。前回のイベントよりも準備するものが多いのと、小学校側に協力していただくことが前回よりも多かったので小学校との連絡を密に行いイベント本番にスムーズに活動できるように努めた。また前回に引き続き日本語講習センターの方にベトナム人実習生のゲストを手配していただき、更に今回はハユカ日本語研修センターの方にも協力していただいた。それぞれに連絡をし、協力していただくのは大変だったが、実習生の方々にも喜んでいただけるイベントとなった。



→滝宮小学校にて



→綾上小学校にて

→陶小学校にて

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響 あるいは効果

2022年において425人の外国人が綾川町には住んでいて、その多くは職場等でしか日本人と関わる機会がなく、日本人の綾川町民も外国の方と交流する機会はありません。そのため今回のようなイベントを実施することで、子供の頃から外国人に対する偏見をなくし、フラットに実習生などの外国人と接することができるようになることを考える。こういった交流の機会を提供することで外国や、実習生について興味を持ち、綾川町が双方にとって住みよい町になるきっかけとなる効果が期待できる。更に本事業に関わった学生は綾川町に対する理解が深まったとともに、まちづくりという点で地域に貢献することができた。

(4) プロジェクトから学んだこと

・多文化共生について

本事業を通して多くの実習生や外国人住民と交流することができ、学生自身の理解も深まった。小学生とゲストが交流するにあたり、ゲストの日本語力という観点から学生の補助は必須であるため、短い期間に多くのイベントを行い、経験を積むことができ良い経験となった。また本事業を行う前にやさしい日本語研修という研修を行っており、そこで学んだ外国人にも伝わりやすい日本語を使用し交流をしてきた。しかし最初の内はそのやさしい日本語を使用する場面があまりなく、実践的な活動ができるまで時間がかかってしまった。

・イベントの運営について

プロジェクトのメンバーが少ない中、仕事を分担して連絡を取り合い、イベントを運営できた。連絡を取っている方々が多くいたので、どこからの連絡なのか、内容も含めて細かく共有することを重要視した。前回のイベントでは連絡が遅くなってしまったり連絡のミス等があったりと反省点も多かったが、今回は事前訪問も早めに行い協力して下さっている機関の方々と密に連絡を取り合うことができたと感じる。それでもやはり実習生の都合もあり、直前に小学校の方にお問い合わせすることもあったが快く協力して下さり無事イベントを実施することができた。今後は最初の段階からプログラム案を詰めて考えることと、ゲストの都合に合わせてられるように数パターン用意できるようにイベントを考えていきたい。

(5) 実施メンバー

代表	北尾あかり	(法学部・2年)
副代表	畑碧莉	(農学部・2年)
	岡田楓	(教育学部・3年)
	佃萌花	(教育学部・3年)
	桑島岳斗	(経済学部・2年)
	比嘉大輔	(創造工学部・2年)
	山地脩人	(創造工学部・2年)
	河井晴斗	(経済学部・1年)
	河田翔海	(経済学部・1年)
	吉田知紗	(教育学部・1年)

(6) 執行経費内訳書

配分予算額		98,218 円 (配分された額)		
執行経費 (品目など)	数量	単価 (円)	金額 (円)	備考
ビー玉	1		637	
チャック付きポリ袋	1		637	
水性マーカー	6	549	3294	
クリーンカラー	6	1,022	6132	
布テープ	1		131	
吊り下げ名札 (青)	2	2,629	5258	
吊り下げ名札 (赤)	2	2,629	5258	
折り畳みコンテナ (緑)	2	1,529	3058	
クラフト用シーチング生地	3	2,959	8877	
ハサミ 布用	2	2,189	4378	
水	51	100	5100	
交通費 2月20日			2200	
交通費 2月21日			2840	
交通費 2月28日			2040	
インク	1		3718	
コピー用紙	1		2519	
割りばし	2	406	812	
画用紙	1		186	
ビニールテープ	1		186	
インク	1		4719	
謝金			8000	
合計			69980	